クリームパン

辻本祐樹　　東てる美

企画のねらい

「いのちと人権」　～つながるいのちを感じて～

子どもや若者たちの間で、あまりにも軽く使われる『死にたい』『死ぬ』『殺すぞ』といった言葉。それは、彼らが「いのち」の尊さに気づいていないことの表れでしょう。もしかしたら、大人も気づいていないのかもしれません。「いのち」とは温かく、ずっしりと重いもの。一度失われたら、二度と再生しないもの。

このドラマでは、人によって生かされ、つながっていく「いのち」を中心に描いています。虐待やいじめなど、人を傷つけ、いのちを奪うのも「人」ならば、傷つき、死に瀕している人のいのちを救うのもまた「人」なのです。人と人とがふれあい、心を通わせることで救えるいのちがあります。

子どもへの虐待や若者の自殺など社会問題になっている事件を通して、社会や地域の中で孤立している人々に対する正しい理解を訴えるとともに、このドラマを見た方々に、今一度、「いのち」について自分の問題として考えていただけるような人権啓発ビデオを制作しました。

企　　画／兵庫県・(財)兵庫県人権啓発協会
企画協力／兵庫県教育委員会
製　　作／**東映株式会社**

販売価格（消費税込み）

■ 上映時間 36分　販売価格84,000円（本体80,000円）

ＤＶＤ…字幕副音声版〔C#6359〕
ビデオ…字幕副音声版〔C#6360〕
ビデオ…通常版〔C#6361〕

多田公佑（25歳）は派遣切りにあって失業中。アパートで一人暮らし。親しい友人も近所づきあいもなく、携帯ゲームだけが友だち。再就職もうまくいかず自暴自棄な生活を送るうちに、ふと死のうかと考える。

ベランダに出ると、男の怒鳴り声が聞こえてきた。隣室を見ると、男（戸倉）が小さな男の子（武史）を二階から落とそうとしている。恐怖で泣き叫び、母（美波）に助けを求める武史。顔には殴られたようなアザが見える。見ていたら戸倉に睨まれ、逃げるように部屋に戻りアパートを飛び出す。

商店街をあてもなく歩いていた公佑は、いい匂いがしてくる小さなパン屋の前で立ち止まる。店主の珠子に試食をすすめられ、公佑はクリームパンを一個買う。部屋に戻ると、腹を空かせた武史がベランダに締め出されていた。クリームパンを武史に渡す公佑。

珠子は、顔見知りの武史が虐待を受けているのではないかという噂を聞き、心配する。偶然、隣人である公佑と出会い、事情を聞いて民生委員・児童委員に相談することに決めた。そのことが縁で公佑は珠子の店でアルバイトを始めた。仕事帰り、一人で遊んでいた武史と一緒に遊び、仲良くパンを食べる。それを見た戸倉は嫉妬と怒りの眼差しで二人を見る。

公佑が部屋に戻ると、隣室で戸倉が暴れ出している。人が壁にぶつかるような音、そして武史と美波の悲鳴。いてもたってもいられなくなって、珠子に連絡する公佑。武史の助けを求める声に突き動かされるように、美波の部屋のドアを叩く。

入院した武史のもとに集まる公佑、珠子、美波。珠子は誰にも話さなかった阪神・淡路大震災で起きたことを話す。公佑も自分の身の上を語り始めるのだった。

学習のねらい

- 登場人物の言動を通して、「いのち」を軽んじる風潮に流されていないか、日頃の自分自身の言動をふり返る。
- 「いのちのきずな」に気づくとともに、互いの人権を尊重し合うことは、生きることの素晴らしさや生きる喜びにつながるということを認識する。
- 「いのち」を大切にする生き方をするために、人と人とのつながり、家庭の果たす役割、家庭と地域社会の関わり方について、自分の問題として考える。

○スタッフ　プロデューサー／鎌田幸人　脚本／山上梨香　監督／高橋　浩

関東営業推進室　東京都中央区銀座3-2-17　〒104-8108　☎03－3535－3631
関西営業推進室　大阪市北区梅田1-12-6　〒530-0001　☎06－6345－9026
広島出張所　広島市中区橋本町5-2　〒730-0015　☎082－511－2066
福岡出張所　福岡市博多区中洲4-3-18　〒810-0801　☎092－262－3101

●お買い上げは……